

伝統的建造物を活用した住まい・まち学習 —住教育の実践と課題—

佐々木 唯*

Using Traditional Buildings to Learn about Housing and Urban Environments: Teaching about Housing and Issues with that Education

Yui SASAKI

要旨 住まいとまちの歴史的背景を知り、成り立ちを理解することは児童・生徒の学びに多様な可能性を有し、伝統的建造物を次世代に継承するためにも重要である。住まいの指導に際しては、家庭の多様化にともない、児童・生徒にとっての家庭生活が異なる点に留意しなければならない。そこで、学校を教材とした置き換え学習を参照して、伝統的建造物を教材とした住教育の実践と課題を検討することとした。伝統的建造物を活用した住まい・まち学習のためには、登録有形文化財を地域・教育資源と認識することが有効であり、その所有者が、小・中・高校の教材として活用することに積極的であることが前提となる。伝統的建造物の継承者と連携した住教育を推進するため、大学教育における建築・空間・生活の実践的・体験的な学習活動の充実と展開が期待される。

キーワード：住生活 置き換え学習 地域学習 家庭科教育 環境教育

1. 緒言

日本住宅の特徴であった座敷や床の間のない現代住宅が増え、和室離れが進む現在、住教育において伝統的な住宅建築と住み方を理解し、生活文化を体験する学習は重要となる。また、住まいとまちの歴史的背景を探究し、空間構成や成り立ちを理解することは児童・生徒の学びに多様な可能性を有する¹⁾。

安全で安心できる持続可能な暮らしや地域づくり、さらに環境に配慮したライフスタイルの確立が求められ、その実践的・体験的な学習活動²⁾となる住教育の内容を充実することが望ましい。

「住まい」や「まち」には学びの教材が無限にあり、住生活の中で日々の様々な体験をもとに

した学びが住まい・まち学習³⁾の固有性であり、住教育は教科領域横断性を備えている。

現代の住宅は、近代家族のための住宅として発展し「夫婦と子」からなる標準家族を想定して普及した。高度経済成長期に勉強部屋⁴⁾として子供部屋が普及し部屋の洋室化が進展した一方、存在理由があいまいな和室は住まいから排除されてきた。日本の気候風土に適した「和室」を評価することは、日本の住まいを学ぶに適した教材になると考えた。

一方、家庭科教育において、「住生活」は内容の難しさ、時間不足を理由として、指導しにくい領域といわれる⁵⁾。加えて、住まいの指導に際しては、家庭の多様化が壁となり、児童・生徒にとっての家庭生活は異なる点に留意しなければならない。そこで、学校を教材とした置き換え学

* ささき ゆい 文教大学教育学部非常勤講師

習⁶⁾を参照して、伝統的建造物を活用した住教育の内容を検討し、実践を通じた課題を明らかにすることとした。

2. 調査方法

「住居学」の受講生を対象として、住まい・まち学習に関する質問紙調査を行った（調査期間：2015, 2016, 2017年）。さらに、越ヶ谷の歴史的建物見学会と住教育のための題材収集を実施した（調査時期：2016年11月）。

表1 調査項目

1. 高校までの住まい学習、教科書
2. 空間理解（絵本、遊びの記憶）
3. 住まい・まち学習（候補地）
4. 住まいの知識（構成、和室数、和のインテリア）



①建築見学会



②座敷から眺める庭と稲荷社

写真1 越ヶ谷の歴史的建物見学会

3. 高校までの住まい学習—家庭科において—

高校での使用教科書は、「東京書籍」が多く、「教育図書」による学習が続く⁷⁾。

学習内容は、「1. 住まいとは」「7. 災害と住まい」が多く（表2-2）、住教育は防災・減災教育として位置づけられている。日常・非日常に関わらず、生活する上で切り離すことのできない「生命・財産を守るシェルター」としての住まいとその役割を認識し、安心・安全・健康的な生活を身につける住教育が重要となる。

また、環境工学に関わる「3. 通気と換気」や「2. 日光と採光」の学習、建築計画に関わる「5. LDK」「6. 家庭内事故」の学習が回答される。一方、「4. 室内環境汚染」や「8. インテリア」は回答数が少なく、現代の衛生・管理や心理・意匠に関わる住教育の課題が示唆できる。

4. 住まい・まち学習

4-1 住まい学習

住まいの温熱や照明を調節し快適にするための教材として「住まいの環境教育」がある。小学校の指導に使えるよう、住まいの暑さ・寒さおよび換気を取り上げた授業計画や、学校の中で実験や実習が可能な教材は多岐にわたる⁸⁾。

一方、住まいの間取り（平面図）を扱う教材として「平面計画シール」がある。これは、家具や設備、窓や扉のシールを平面図に貼り、自分の住みたい家を計画する教材である。なお、平面図に家具を書くための道具として製図用テンプレートがあることから、シールの代替として製図道具を利用した指導も可能となる。

平面図の作成について、学生の中には苦手意識もあるものの、「間取り図を見ることが好き」「模様替えをする」学生には、「室内のレイアウト」「間取りの工夫」に対する積極性がみられる。

住宅の図面には、平面図、立面図、断面図、配置図があり、これら住宅図面に接する格好の教材として絵本があげられる。

そこで、子どもの頃に読んだ「住まい」に関

表2-1 教科書対応表—高等学校「家庭科」—

家庭基礎	住まいとは	日光と採光	通気と換気	室内環境汚染	LDK	家庭内事故	災害と住まい	インテリア
311		日光と採光	通気と換気	室内環境汚染 シックハウス 症候群	間取り 組み合わせ	住居内の 事故	自然災害の 対策 人的災害と 住居	収納と 物の管理
312	住まいの役割	日照・採光	換気・通気	化学物質の発 生源と健康被 害	生活行為と 間取り	家庭内事故 の予防	安全に暮らす	照明器具 ユニバーサル デザイン
家庭総合								
307	住居の機能と 変化	日光と採光	通気と換気	室内環境汚染	間取り 組み合わせ	住居内の 事故	自然災害の 対策 人的災害と 住居	和室の室礼 インテリアデ コレーション
308	住まいの 役割	日照・採光	換気・通風	住宅内の環境	生活行為と 間取り	家庭内事故 を予防する	災害の対策を する	室内コーデ ィネット

311) 東京書籍, 312) 教育図書, 307) 東京書籍, 308) 教育図書

表2-2 住まいの学習

1. 住まいとは	12 (4/8)
2. 日光と採光	6 (1/5)
3. 通気と換気	7 (0/7)
4. 室内環境汚染	4 (0/4)
5. LDK	7 (1/6)
6. 家庭内事故	6 (0/6)
7. 災害と住まい	8 (0/8)
8. インテリア	0 (0/0)

(単数回答/複数回答)

表3 住まいの絵本・アニメ

三匹のこぶた, 1933
100万かい生きた猫, 1977
かいけつゾロリ, 1987~2017
ハウルの動く城, 2004
カールじいさんと空飛ぶ家, 2009

その他: ぐりとぐら, おしおのぼうけん, シンデレラ

表4 住まい・まち学習のフィールド

住まい
埼玉県内 (越谷, 川越, 春日部, 浦和)
埼玉県外 (千葉: 船橋・幕張・流山, 東京: 浅草・上野)
(京都, 奈良, 岡山)
まち
歴史環境 (京都, 奈良, 倉敷・美観地区, 真壁, 佐原, 横浜・居留地, 桐生)
自然環境 (成田山)
学習施設 (江戸東京たてもの園, 江東区深川江戸資料館, 博物館明治村, 千葉県立房総のむら, 国立西洋美術館, 小・中・高等学校, 大学)
その他: 小学校 (笠原小学校, 打瀬小学校), 美術館ほか (埼玉県立近代美術館, 埼玉会館)

表5 暮らしの中の和・和室数—

和室数	室名	
1 (30)	寝室	(10)
	客間	(7)
	居間	(1)
	仏間	(1)
	不明	(11)
2 (8)	寝室+寝室	(1)
	寝室+客間	(1)
	不明	(6)
3 (1)	客間+寝室+寝室	(1)
4 (2)	寝室+寝室+寝室+寝室	(1)
	寝室+居間+部屋+部屋	(1)
8 (1)	客間+客間+客間+居間 寝室+寝室+寝室+部屋	(1)

凡例: (事例数)

する絵本で、印象に残っているものをたずねた。「三匹のこぶた」のように世界の童話やアニメを学生は思いつくものの、回答数は少ない(表3)。絵本は住教育の教材として認識されていないためと考えられるが、世界の絵本を通して、「気候風土と住まい」を学ぶことができる。住まいやまちを舞台とする様々な童話⁹⁾を通して、「住まいとは何か」「住まいの材料」「インテリア」「防災・減災」を身につけることが可能である。絵本は空間理解の助けとなることから、読み聞かせを住教育として認識することが有用である。

さらに、児童の遊び¹⁰⁾として、「積み木」「ブロック」「ドールハウス」および「人形」は、ミニチュア遊びやロールプレイングの経験になる。ミニチュアは模型に等しく、積み木やブロックを用いて、三次元の構成型を養うことができることから、住教育の導入として有用性が高い。

4-2 まち学習

住まいは個々に存在するものではなく「まち」として存在し、地域や学校も児童・生徒にとって生活の場である。これらを教材として取り上げることによって、学びの教材は無限に見いだせる。日々の住生活の中で多様な体験と交流を通してコミュニケーションや社会参加の主体性を育成することが、住まい・まち学習に求められている。

住まい・まち学習に関わるレポート課題のフィールド(候補地)を表4に示す。埼玉は東京のベッドタウンであり、東武沿線に大規模団地が開発されたため、居住者の高齢化や多国籍化する事例のレポートが集まった。住宅地を訪問して、住まいを撮影し、レポートする課題をもとに、社会科見学や地域のマップ作成に展開することが可能である。さらに、住まいとまちは教材であるとの認識が深まる。

5. 日本の住まい・まち学習

一越ヶ谷の伝統的建造物を事例として一

「住居」の指導において、児童・生徒によって異なる家庭環境に留意することが求められる。そ

こで、学校を教材とした置き換え学習を参考に、地域学習として展開できるよう、日本の住まいと住宅史を理解する住教育の実践を検証し、日本の住まい・まち学習の可能性を検討する。

5-1 歴史的建築

越谷市には、旧日光街道の越ヶ谷宿があり、旧街道沿いに蔵のある旧家(写真2)が点在する¹¹⁾。伝統的建築の空間構成や、まちの歴史的背景を知り、成り立ちを理解することは児童の成長や学びに多様な可能性を有する。

2016年に国の登録有形文化財¹²⁾に指定された明治期の建築を教材として、越ヶ谷の歴史的建物見学会と住教育のための題材収集を実施した。

通常非公開の主屋は、床の間と付書院のある座敷や玄関(写真3)、縁側(雨戸と戸袋)からなり、座敷の設えや良質な木材、雨戸を出し入れするための造作は、明治期の建築意匠や木造技術を知る手掛かりとなる。縁側の外から座敷を見学したり、木造建築の庇の長さを測定したり、各部・段差の寸法、室内・外の照度を測定することができる。伝統的な木造住宅について学び、現代住宅との違いを観察し、その価値や問題点を考察することができる。

見学会や資料作成にあたっては、登録文化財の所有者が、その建築物を小学校から中学・高校の教材として活用することに積極的であることが前提となる。さらに、将来教員を志す大学生の建築・空間・生活体験の場として、伝統的建造物の継承者と連携した住教育の展開が望まれる。

5-2 暮らしの中の和

和室に対する学生の意識を明らかにするため、和室を通してみた間取りの構成、和室に関する評価や認識を示す。

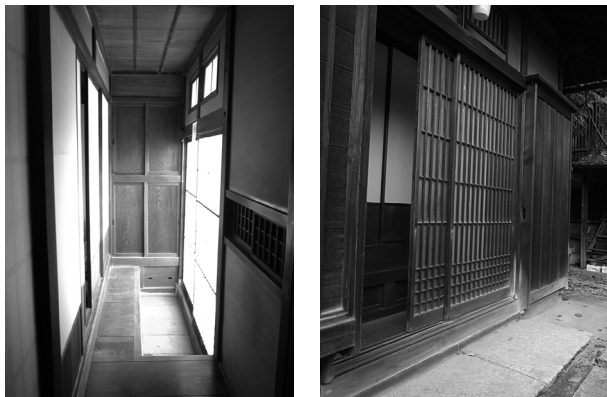
住まいの中の和室数は、1室が最も多く、その用途は「寝室」である(2016～2017年調査)。和室が8室や3室の住まいもあり(表5)、和室数の平均は1.71室であった(2017年調査)。和室と洋室との比較や居室の数え方、部屋の用途、間取りの構成、住まいの役割を理解する一助となる。

和室に対する学生の評価は肯定的であり、「落ち着く」「くつろげるから好き」という意見の一方、和室が「客間」「仏間」として使われる場合には、改まった空間として認識されている。和室の役割は、改まった空間や格式を示す空間というよりも、くつろぐ空間として位置づく傾向がある。和室には「転用性」があり、住み方の工夫が受け継がれてきた。機能を固定しない住まいの善し悪

し、痛みやすい畳や繊細な建具を丁寧に扱う工夫について学ぶことができ、児童の経験する生活体験は技術的、文化的な意味や価値への理解を深めることにつながる。座敷離れの進む現状において、畳、襖、引戸、欄間、格子、縁側、土間からなる日本建築の空間特性を理解することも住教育の手段となる。児童の生活の場として、地域にある伝統的建造物を有効に活用するため、指導にあたり住教育の視点を考慮することが求められる。



写真2 旧日光街道沿い蔵造の旧家



①主屋の玄関（内・外）



②建築各部の採寸（店の高さ）

写真3 住教育の題材—明治期の木造住宅—

6 今後の課題

現代の住まいから「座敷」や「床の間」がなくなりつつある状況をふまえ、学生の和室に対する認識をもとに、伝統的建造物を活用した住まい・まち学習について検討した。最後に、教材としての和室を再評価し、住教育の課題をまとめる。

6-1 教材としての和室

座敷・床の間は、無駄な空間であるかと問われて、学生はどのように考えるだろうか。学生による「和室」に対する認識の中に、機能を持たない空間への肯定的な評価がわずかながら存在した¹³⁾。現代の和室は、くつろぎや安らぎをもたらす空間として認識され、格式や精神性を求める空間は稀少な位置付けにある。日本の生活文化を伝承し、創造する住教育は、建築計画、環境工学、衛生・管理、心理・意匠に関わり、教科横断的性質を活かす可能性がある。

6-2 指導時間の問題と課題

住生活の指導時間は、高校家庭科の場合「5～6時間」または「7～8時間」であるため、単独での授業計画にとどめるのではなく、教科横断による住教育の構築が有効である。効率的な指導のため、住教育の教材コンテンツ¹⁴⁾を整備し、限られた時間の中で効果的な学習を推進することが今後の課題である。

謝辞

本稿をまとめるにあたり、調査に快くご協力いただきました旧日光街道越ヶ谷宿を考える会の皆様に感謝の意を表します。

注

- 1) 伝統的建築を学童保育所に福祉転用した事例において、住教育に対する期待や有用性を指摘した。拙稿(2017)参照。
- 2) 小学校家庭では「季節に合せた快適な過ごし方」「整理整頓の仕方」を学習し、学習指導要領の内容(8)「C 快適な衣服と住まい(2) 快適な住まい方」では、次の事項を指導する。文献2参照。
「ア 住まい方に関心をもって、整理・整頓や清掃の仕方が分かり工夫できること。イ 季節の変化に合わせた生活の大切さが分かり、快適な住まい方を工夫できること。」文科省(2008)参照。
家庭科、技術・家庭科(家庭分野)改訂においても、小・中学校と高校に応じた体系的な目標や内容に改善する基本方針となり、住生活の自立を目的として、生活の課題と実践に関する指導事項の設定が例示されている。
- 3) 住宅総合研究財団「住まい・まち学習」普及委員会(委員長小澤紀美子)資料が参考になる。例えば、博物館、美術館、郷土資料館のほか、自治体の住宅担当課やNPOが運営する施設に、すまいの体験館がある。高齢化対応モデル住宅の展示施設ではバリアフリー住宅体験や住情報が入手できる。
- 4) システム・キッチンや子ども部屋は、家族が近代的生活を享受するために導入された装置である。家事革命は女性の社会進出に貢献するとともに、子どもの高学歴化をうながした。拙稿(2000)参照。
- 5) 住生活の内容を指導しにくい理由は、「資料や教材がない」「生徒の興味・関心を惹きつける指導がしにくい」「他の題材で時間をとられ、

時間が足りない」といわれる。

- 6) 見川ほか(2015)参照。
- 7) 「住まいの学習」内容をたずねるに際し、これまでほとんどの学生が住居領域の学習は「記憶がない」と回答していたため、高校家庭教科書の項目を示して複数回答によって質問した。調査対象者は文教大学教育学部家庭専修の専門科目「住居学」「住生活論」受講者(調査時期:2015年4月,2016年10月,2017年10月)。
- 8) 各種教材として、住生活月間実行委員会ほかの副読本が参考になる。
住生活月間実行委員会,小学校家庭科副読本「考えよう!住まい方のくふう」
住生活月間実行委員会,小学校社会科・家庭科・総合的な学習の時間副読本「環境にやさしい住まい」
住生活月間実行委員会,「中学生のための住まいの安全チェック 安全な住まいを考えよう」
日本総合住生活(株),中学校技術・家庭科副読本「考えよう!わたしたちの快適な住まい」
日本建築学会編,環境教育用教材「学校のなかの地球」技報堂出版
(財)住宅総合研究財団 編著,これからの環境学習「まちはこどものワンダーランド」
- 9) 絵本の例には、静かな田舎の都市化を描く「ちいさなおうち」(1965年出版)のほか、おばけのバーバパパ,バーバパパのいえさがし,ねずみのいえさがしがある。
- 10) 積み木の色合わせや片付け方を工夫することは、遊びの中での学びにつながる。三次元の空間遊びや繰り返し,および創意工夫は、間取りの学習となる。また、間取りの組み合わせ学習は空間の創造力の基礎となる。
- 11) 旧日光街道に沿って発展した越ヶ谷の敷地は東西に長く、道路に面する表に店舗があり、敷地の奥に蔵や主屋を配置する。明治末期の火災後、防火・類焼防止のため蔵店が建築され、土蔵造の町家は3軒ある。
- 12) 登録有形文化財制度は、近年の国土開発や都

市計画の進展、生活様式の変化等により、社会的評価を受けるまもなく消滅の危機に晒される多種多様かつ大量の近代等の文化財建造物を後世に幅広く継承していくために作られた制度である。

ちいさいうち、岩波書店、1965

アネット・チゾン、タラス・テイラー、山下明生訳、おばけのバーバパパ、偕成社、1972

13) 学生による自由記述の一例を示す。

「日本の気候・風土に合わせて発展してきた日本の住居は、日本での暮らしによく合っていると思うし、今住んでいる家の和風建築の部分にいる時にはすごく自然体でいられる気がする。和がなくなっていると言われているが、和を大切にしながら暮らしていくのが日本人のあるべき姿なのではないかと思った。」(2017年調査)

14) 住教育に関するコンテンツとしては、「住生活学・住教育コンテンツ」参照。

[http:// dwellingstyle.jimdo.com](http://dwellingstyle.jimdo.com)

(参照：2017.10.26)

文献

- 1) 佐々木唯，生活の場としての児童福祉施設における住教育の課題—伝統的建築を転用した児童保育所を事例として—，文教大学「生活科学研究」第39集，pp.31-40，2017
- 2) 文部科学省，小学校学習指導要領，pp.76-79，2008
文部科学省，小学校学習指導要領解説 家庭編，pp.49-52，2008
- 3) 牧野唯，子ども部屋，鵜飼正樹・永井良和・藤本憲一編「戦後日本の大衆文化」，昭和堂，pp.95-110，2000
- 4) 見川美鈴・山本善積，学校を教材とした住教育，山口大学教育学部研究論叢第64巻，pp.297-304，2015
- 5) 正岡さち・小谷智恵・亀崎美苗・田中宏子，島根県の小学校家庭科における住教育の実態と課題，島根大学教育学部紀要（教育科学），第46巻，pp.53-60，2012
- 6) バージニア・リー・バートン，石井桃子訳，

